

当日の主な質疑 参加者 45名(横山 20名、南横山 11名、特認 5名、その他・不明 9名)

<ul style="list-style-type: none"> <li>● 特認制度とはどういう制度？</li>   <li>● 統合は理解しないといけませんが、少子化が更に進むので、10年、20年先のビジョン見込んでいるのか？ 建設した校舎無駄にならないか？</li>   <li>● 小規模特認にしてもらえるのか？ 30人なら他の校区でもあるので、20人にして欲しい。</li>   <li>● 反抗期よくなったのは、わかる。8年生、9年生に違和感がある。交流などで学習内容が変更されないのか。中3の受験心配。</li>   <li>● 先生の負担を聞くので、先生の人員確保をしっかりして欲しい。</li>   <li>● 小学校の定期考査について、小学校は内面性の時期なので、負担感心配。</li>   <li>● 南横山の活用には感謝。ささゆりが普通の学校になったので心配はある。</li>   <li>● 校舎の教室配置において、小5、小6、中1が並ぶのは、リセットという意味では心配。</li>   <li>● 南松尾はつが野学園の一部の生の声(現状の苦情)として、授業中や放課後も中学校を重要視し、小学校低学年に「静かにしましょう」とい声かけが多い。 小学校は楽しむこと、中学校は勉強すること、色々存在すると思うので、今後検討して欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 通常は、地域により通う学校は決められていますが、和泉市内全域から子どもが通うことができる制度が特認制度です。</li>   <li>○ 人口ビジョンは大切であり、また、少子高齢化などの問題も踏まえ検討しています。</li>   <li>○ 20人から30人であれば小規模と捉えています。詳細の人数は、今後検討していきます。</li>   <li>○ 1つの敷地内に1年から9年生がいることにより、掃除を一緒に行うなど、交流を深めることができます。授業については、学習指導要領に則っており、現在の小学校、中学校の内容と差があるものではありません。</li>   <li>○ 人員確保には努めていきたい。</li>   <li>○ 中学校段階の試験のやり方に慣れるということはあると考えており、小学生の負担にならないようにも取り組んでいます。</li>   <li>○ 南横山小学校でしかできない教育を特色ある教育環境と捉えており、今後も維持・継続していきたいと考えています。</li>   <li>○ 教室配置については、様々なバリエーションが考えられ、今後、学校建設をする際には検討していきたい。</li>   <li>○ 授業開始・終了のチャイムを工夫するなど取り組んでいます。 同じ敷地内で1年生から9年生までがお互いに学びあう環境は大事。教員は、異学年にどんな声かけを行うかを学んでいく必要があります。より良い教育環境になるよう努めていきたい。</li> </ul>
--	---

アンケート自由記入欄

<ul style="list-style-type: none"><li>● 小中一貫校となることはとても賛成で、早く作って欲しいと思いました。ただ、人数を確保するために合併するのではなく、地域に新たな人が寄ってきてくれる魅力的な教育内容にして欲しいです。(IT 教育に特に力を入れる等、特性を打ち出してアピール力を上げる)</li><li>● 教育は保護者にとって高い関心があると思います。横山学校区から巣立っても社会で通用する高い教育と生きる力を身に付けていくような教育を小中一貫校で行ってほしいと思っています。今の「きのみ保育園」や小学校などで行われているような横山の自然や文化と触れ、あたたかみのアットホームである丁寧な教育を大切に、卒業した子どもたちが横山に愛着を持ち、自分の子どもにも同じ教育を受けさせたいから地域に戻りたいと思い、横山が活性化、人が戻ってくる伝統校をお作りいただきたいと思います。</li><li>● 何故小中一貫校が良いと判断した経緯がよくわからない。現状、教育環境にどのような課題があり、その対策を検討する中で小中一貫校のメリットを説明願いたい。小中一貫校のデメリットをもっと説明してほしい。和泉市の運営上の課題を説明頂けると納得性も高まると思います。</li><li>● 教員の負担が大きいと聞きますが、その辺の対応はどうなっているのでしょうか。(開校までに対応できるのでしょうか)小中一貫教育を始めれば次々と推進していった方がいいのでしょうか。南松尾はつが野学園の検証をもう少</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 子どもたちのより良い教育環境を第一に考えております。施設一体型の利点と槇尾中学校区の良さを生かした教育内容を検討していきます。</li><li>○ 地域とともにある学校として、豊かな自然や地域の文化は、大切にしたいと考えています。また、これから求められる力をしっかりと育むべく、教育環境・教育内容を検討していきます。</li><li>○ 和泉市では、義務教育終了時の子どもの学力に責任を持って取組むべく、平成29年4月より、全中学校区で小中一貫教育を実施しています。異学年との交流が増えることにより、多様な学びを子どもたちが経験できることがメリットです。施設一体型では、その効果がより高めやすく、槇尾中学校区においても検討を始めたところです。南松尾はつが野学園では、今のところ大きな課題はありませんが、PTA 活動をはじめ、試行錯誤の部分はある、移行に伴う戸惑いはいくらかあると考えますが、学校との協力と時間が改善につながると認識しています。</li><li>○ 特に開校時は、教育環境の整備等で他校に比べ業務が多くなることはあります。南松尾はつが野学園の場合には、統廃合に係る加配教員の措置がなされました。開校までに一定の期間がありますので、その間においても対応を研究してい</li></ul>
--	--

し見てからのスタートでもいいのではないかと感じました。

- 将来のビジョンを持っていない事を理解しました。決定ありきでの説明会はやめていただきたい。
- 少人数、小規模校の良さ、重要性もわかって欲しい。人数を集め、クラス替えがあるだけで切磋琢磨される訳ではないと思う。現在も3校が交流する機会もあり、施設一体型小中一貫校にする必要も感じない。今までの説明では特認生の入学が予定どおり確保できるとは思えません。旧南松尾小の保護者の中ですでに「元に戻して欲しい」という声があるのをご存知ですか。
- 6年生は、現状では最高学年として自覚とメリハリをもって学校生活を送っていると思うのですが、9年間一貫となると「中間にいる期間」が長くなるので、小中一貫に関して不安があります。小6の卒業含め一連の流れは、子どもの成長にとっても大切なことなのではないかなと思います。9年間がダラダラとすぐく感覚にならないことを願います。

#### 【小中一貫校の意思決定について】

- 基本的なことは理解できましたが、この先の決定案が何なのか、必要なのがわかりにくい。小中一貫校とする意思決定をする前に、きちんと決定しておかなければならない課題が多くあると思います。返答をあいまいにせず、きちんとした答えを出していただきたいです。

#### 【移住効果について】

- 小中一貫校として始まっている南松尾はつが野学園は、和泉市へ移住している人が増えていると認識しています。槇尾の小中一貫校も同様の効果を見込める様、居住についても検討いただきたい。

ます。

- 小中一貫校は、有効な手段と認識していますが、まだ、決定ではありません。関係のみなさまのご意見も踏まえ、疑問に感じるなどについては丁寧な説明に努めます。
- 槇尾中学校区だけでなく、少人数・小規模校では、その「良さ」を生かした教育が行われています。また、デメリットを少なくする工夫も行われています。現状のままということも選択肢の一つですが、今後を考えると、施設一体型とすることで、多様性に富んだ集団を形成することが可能となり、より充実した教育環境となると考えています。
- 9年間の学校生活、また、子どもの発達段階を考え、「節目」は大切と認識しています。4年生での1/2成人式や6年生での前期課程修了式など節目の行事や前期課程での「たてわり活動」など、その発達段階に応じた取組みを工夫しています。
- 皆さんの疑問に感じることや今後の手続き等への回答や説明については、引き続き地域への説明会等の開催や丁寧な情報提供をさせていただきます。

- 地域のまちづくりについても、庁内の関係各課と連携して取り組んでいきます。

【跡地利用について】

- 跡地利用ですが、学校関連施設にしてください、市費で塾をやっていくなど。
- 南横山小学校の跡地利用として、災害時避難所として利用とあったが可能なのか。小中一貫校における留守家庭児童会の内容はどうか。榎尾中学校区における売りである自然環境として列記されていた榎尾山、笑働の森は全て府主導だが、市としての独自策はあるのか。
- 南横山のような自然環境で過ごす時間は、大切だと考えています。できるだけ活用していただきたいです。

【教育内容について】

- 学校生活で問題を抱え、登校しにくくなった子どもが学べる場も確保してください。クラスの人数は少ない方がよく、20人以上にならないようにして、クラス数を増やしてください。20人以上になるようなら「スクールサポーター」を2人以上1クラスに付くようにしてください。
- 全てを南松尾はつが野学園に倣って同じようにするのはではなく、横山、南横山の自然を活かせる施設づくり、授業内容を考えてほしい。人数の変化にも対応できる校舎づくりをお願いしたい。先生や市ではなく、通う生徒への負担やデメリットが少しでも少なくなるよう、あらかじめいろんな事を確認しておいてほしい。

○ 南横山小学校については、周囲の自然環境を生かした教育機能をもった施設として、有効活用していくことを検討したいと考えています。

○ 南横山小学校の避難所としての指定は難しい状況ですが、災害時にの拠点としてなどの活用を検討したいと考えています。

小中一貫校を新設した場合、市内各校同内容の留守家庭児童会の設置を小中一貫校に設置します。

教育課程については、学校で編成することとなりますが、市教委として学校が特色ある教育活動（関西トランスウェイスタジアムや南部リージョンセンターの活用等）が実施できるよう支援します。

○ 南横山小学校については、周囲の自然環境を生かした教育機能をもった施設として、有効活用していくことを検討したいと考えています。

○ 登校に配慮が必要な児童生徒に対しては、課題解決に向け、各校において担当教員を中心に様々な支援人材を活用しながら取り組んでいるところです。1学級における児童生徒数は、少人数指導の良さも生かせるよう就学定員を検討します。また、支援人材についても、必要に応じ活用を検討します。

○ 教育課程については、学校で編成することとなります。市教委としては、一律ではなく地域の実情も勘案しつつ、自然環境や地域の文化を踏まえた特色ある教育活動が実施できるよう支援してまいります。また、施設や設備、通学方法など、より安全で効果的な教育が展開できるよう検討します。

● 定められたカリキュラムをこなしながら、プラスαの活動を行うとすると、先生の力量や人数が大切になってくると思います。今の南横山があるのは、少人数 20 名定数であること、先生方の力量が大きいと思っています。ぜひ考慮していただけたらと思います。

● 説明内容は理解できました。長期ビジョンがあやふやかなあと。保護者としては、先生の負担はそのまま教育内容につながる要素となると思います。この一貫校が実現するのであれば、その際に現場を支える方々すべての負担が軽減されることを希望しています。ただ、自治体の発展の為であるなら、公費は公教育こそ費やされるのが望ましいと考えます。

#### 【給食について】

● 南松尾はつが野学園のランチタイムについて、それはそれで良いかもしれませんが、アレルギー対応の事はどうなっていますか。学校のコストや教育の事の説明ばかりで、アレルギーの事はどうしたらいいですか。今はたくさんの方が食べられなく給食がほぼ無理な状態で、お兄ちゃん、お姉ちゃん達だけがそばにいて食べるという事はとても不安です。そういう先生もいてもいいんじゃないかと思えます。細かい事を言いますが、牛乳をこぼしたりしてもただ拭くだけではダメなんです。そういう命に関わる事ももっと目を向けて欲しいです。

#### 【通学バスについて】

● 留守家庭児童会に入ったとき、別にバスは出ますか。

● 中学校の特認バスを期間前倒ししてほしい。

#### 【特認制度について】

● 特認を活用するについて、具体的な形が見えない。何の魅力を押ししていくのか。小中一貫校となるまでの南横山の特認児童の確保。小中一貫校となつてからの特認児童生

○ 教員の配置に際しては、当該教員の専門性や配置校の教育環境などを踏まえて行います。

○ 将来の子どもたちのために小中一貫校を検討しています。教員の負担軽減、業務の効率化に取組み、教育の質を向上させていくために研究を継続していきます。

○ 全ての学校において、児童生徒の命と安全を守るということは、何よりも優先し取り組んでいます。小中一貫校となつても、食の安全、アレルギー対応についても万全を期し取り組むもので、上級生に任せるものではありません。基本となるのは保護者と学校、また、学校内での確実な情報の共有です。各校において、個に応じた、食に対する指導を行うことができるよう、支援します。

○ バスの詳細は現時点で未定ですが、南松尾はつが野学園でも配慮しています。

○ 要望として伺っております。

○ 「地域とともにある学校」に基づき、榎尾中学校区の特徴を生かした教育活動を展開することをアピールしていきます。

自然環境、少人数学級、複数学級が新校のベ

徒の確保。それぞれの学校で特色が違ったりする事もあるので、現状での特認の売り、新校での売り、共通する売りをきちんと検討していくべき。

- 特認制度=20人×6学年=120人。小中一貫特認=30人×2クラス×9学年=540人。先生の大人の目が増えると言われたが、1人の先生がすべての生徒の名前や顔を覚えられる人数ではない点が気になりました。
- 特認に対するビジョンが不明なのがとても残念です。本来は青葉はつが野小学校区に住んでいます。子どもは地域の中で育つことがあるべき姿ですが、千人を超える大規模校よりも、子どもが伸び伸びと子ども時代を楽しく過ごせることを願い、南横山小へ入学させました。学校生活には満足していますが、先生方のご尽力のおかげと考えています。ぜひ、現場の先生の声を聞いていただきたいと思います。また、特認は、様々な個々の理由で学校を選んで来ています。様々な価値観のある人の集まりであり、地元の方々と少し違う面があります。中でも人数の割にハンディのある子どもが多いと感じています。それは悪いとは言いません。でもこういう現実があることは教育委員会の方は十分わかっていることだと思います。特認校であるということは、こういうアンバランスを整える必要が絶対にあります。様々な価値観のある人の集まりという意味で、みんな、多くは自分にとって良いかどうかで物事を考えると思います。だから、現場のことをよく知り、汗をかいてくださっている現場の先生の声を大切にしてください。
- 特認を途中でやめることが出来るようになるのか。特認を含めた定員を41人としてもらえるのか。

ースとして想定されます。現にある自然環境、少人数学級の継承とともに総合スポーツセンターの活用をはじめ独自の教育課程などを検討しているところです。

- 児童・生徒数が増えることにより、関わる教員の数は増えます。多様な教師の目が増えるとともに、更に、PTA や地域の方などのスケールも大きくなります。そういった面からも、見取り・見守りの充実は図られます。
- 市として、教職員の意見を踏まえ取り組むことは大切だと考えています。また、様々な価値観のある方々が特認制度を利用し、通学されていることも認識しています。地域・保護者・教職員が、「子どもの教育」を核として、みんなで作る学校をめざすことが必要と考えています。
- 就学定員、特認制度の詳細については今後も検討していきます。